

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	医療・生命薬学専攻	分野	
学籍番号		院生氏名	杉山奈津子
通学キャンパス			
論文題目	乳がんの治療効果向上に関する研究		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について記載する。</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本論文は、大きく分けて2つの内容で構成されている。</p> <p>【研究の背景と目的】</p> <p>化学療法を含むがん治療は、近年、入院治療から外来治療へシフトしつつあり、薬剤師の外来での関わりが望まれている。しかし、外来薬剤師業務で保険診療上の算定が可能となっているのは、一部の業務のみであるため、多くの施設では業務として確立していない現状がある。本研究では、乳がん患者等への外来薬剤師業務を探索し新たな業務の確立をめざすべく検討を行った。</p> <p>乳がんはサブタイプに分類され、術後の薬物療法はサブタイプによって異なるものの、術前薬物療法レジメンの化学療法メニューや用量はサブタイプによる違いはない。本研究では、乳がんの各サブタイプにおける治療効果向上を目的とした個別化医療への新たな知見を得るための検討を行った。</p> <p>【結果および考察】</p> <p>外来診察室における薬剤師ニーズとして、薬剤師による問診業務の必要性が示された。また、免疫チェックポイント阻害薬 (immune checkpoint inhibitor : ICI) 投与中に免疫学的有害事象 (immune-related Adverse Event : irAE) を発現した場合、腫瘍縮小効果の有無にかかわらず、投与中止後も irAE の発現について常に注意する必要があると考えられた。今回作成した irAE の副作用フローチャートは薬剤師から有用であるという回答が得られたことにより活用しやすいと考えられた。今後の外来での薬剤師業務の展望として、問診スキルの修得 (問診項目マニュアル、外来薬剤師のクリニカルラダーの整備) と副作用の早期発見のための取組み (ICI フローチャートの作成、院内周知) が重要であると考えられる。</p> <p>サブタイプにおける検討では、Luminal type でかつ、タモキシフェンを服用する患者は、術前化学療法 (neoadjuvant chemotherapy : NAC) の平均相対用量強度 [average relative dose intensity : ARDI (%)] を 100%に維持する必要性が示唆された。その他のサブタイプでは、NAC の ARDI の維持が予後に影響しないと考えられる。</p> <p>【結語】</p> <p>本研究では、乳がん外来における薬剤師ニーズを明らかにすることができた。また、これまで明らかになっていなかった乳がんにおける NAC の個別化医療への知見を得ることができた。</p> <p>2) 本研究は国際医療福祉大学 (18-10-27) および順天堂大学 (17-269) の倫理審査委員会の承認のもと適切な実験計画により実施された。また、論証、論文形式も適切であったと思われる。</p> <p>3) 本研究の新規性は乳がん治療における薬剤師の果たすべき役割を明らかにしたものであり、乳がんの個別化治療に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過については、特記事項がある場合にのみ記載する。</p> <p>審査会は2回開催し、初回審査で論文のまとめ方や体裁などについて論文の修正を求めたところ適切に修正された。2回目の審査はオンラインで行われた。</p> <p>3. 口頭試問の結果を簡単に記載する。</p>			

杉山氏は論文審査会の口頭試問において適切に応答した。

4. 合否を記載する。

以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（薬学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者

主 査            八木 秀樹

副 査            相馬 義郎

副 査            加藤 英明